

2025年7月23日

地方創生

「地域の未来を変える！ シン・財源開発集中ゼミ」を開催しました

十六フィナンシャルグループのカンダまちおこし（以下「当社」といいます。）は、岐阜県および愛知県の自治体職員を対象とした「地域の未来を変える！ シン・財源開発集中ゼミ」を開催しました。

本ゼミナールは、自治体職員自ら財源を獲得する力を身につけることを目的とし、ふるさと納税や企業版ふるさと納税、民間連携等の手法を学び、各地域の実情に応じた「新たな財源開発プラン」を立案する実践型の研修として、2025年5月から7月にかけて全3回のカリキュラムで実施されました。

講師には、ソーシャルセクターの資金還流やソーシャルビジネスにおける経営支援を専門とする株式会社風とつばさ代表の水谷衣里氏を招き、実践的な指導をいただきました。

最終回（第3回）では、受講者がグループに分かれ、約3か月にわたり議論・検討の成果として、「バーチャルビジネスプラン（財源開発プラン）」を発表しました。発表の様子は、派遣元の自治体首長や関係者も聴講いただき、プランに対する貴重な意見が交わされました。

当社は、今後も「財源開発」を事業領域とし、まちづくり財源開発を推進してまいります。

【ゼミナールの概要】（2025年）

日程	内容
【第1回】 5月16日（金）	・ 実例紹介（岐阜県白川村職員） ・ ふるさと納税の最前線（株式会社ヒダカラ） ・ マーケティングの視点と戦略の立て方（株式会社リーピー） ・ 企業版ふるさと納税・ふるさと納税の仕組み（当社） ・ バーチャルプラン作成に向けたグループディスカッション
【第2回】 5月30日（金）	・ 各自治体が抱える具体的な課題に対する「戦略」検討（現実的な資金調達の方法、地域住民との関係づくり、プロジェクトに伴走する仕組みづくりなど）
【第3回】 7月4日（金）	・ 自治体職員が作り上げた「バーチャルビジネスプラン（財源開発プラン）」のブラッシュアップ ・ 最終発表

【ゼミナールの様子】**【参加者からのコメント】**

- ・ 「どんなまちにしたいのか」というビジョンを描き、寄附者との共感をつくることの大切さを実感しました。
- ・ 一過性の寄附で終わらせない「関わりしろ」づくりが、今後の地域づくりには不可欠だと感じました。
- ・ 寄附を募る際には、単なるベネフィットではなく、企業の価値や思いとつながる提案が必要だと学びました。
- ・ 物納型の企業版ふるさと納税や、ふるさと納税3.0など、これまで知らなかった制度や仕組みに触れ、活用の可能性を感じました。
- ・ 講師の話から、共感が生まれるプロセスや地域と企業のつなぎ方について具体的な学びを得ました。

以 上